

## 令和2年群馬県農業産出額

農政部 令和4年4月

群馬県における令和2年の農業産出額は、2,463億円と前年に比べて4.3%増加（102億円）となりました。増加理由は、野菜、畜産（豚）の価格が上昇したことによるものです。また、都道府県別の順位は14位です。

部門	区分	産出額 (億円)	構成比 (%)	対前年 増減額 (億円)	概要	
農業産出額 計		2,463	100.0	102		
耕種	米	152	6.2	▲ 4	主食用米の生産量が増加したものの、単価の低下により、やや減少した。	
	麦類	13	0.5	1	小麦の国際価格の上昇に伴い、国内小麦の単価も上昇したため、産出額がかなりの程度増加した。	
	雑穀・豆類	4	0.2	▲ 2	そばの生産量が減少したため、産出額が大幅に減少した。	
	いも類	13	0.5	5	かんしょ及びばれいしょの生産量は減少したものの、単価が平年に比べて高値に推移したため、産出額が大幅に増加した。	
	園芸	野菜	1,004	40.8	92	キャベツやなすは、天候不順の影響で全国的に出荷量が少なかったことから、高単価で推移した。また、ほうれんそうの出荷量が増加した。その結果、産出額がかなりの程度増加した。
		果実	80	3.2	▲ 3	りんご、日本なし等は生産者の高齢化や気象災害等により生産量が減少したため、産出額が減少した。うめは前年に比べ生産量が増産し、単価も好調であった（令和元年産は降雹被害により収量が激減）が、産出額はやや減少した。
		花き	46	1.9	▲ 5	切り花では、高齢化及び新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生産量が減少し、かなりの程度減少した。
	計		1,130	45.9	84	
	工芸農作物		61	2.5	▲ 2	こんにゃくいもは、梅雨期の多雨、夏期の高湿干ばつ等により生育が遅れ、収量が減少し産出額がやや減少した。
	種苗・その他		11	0.4	▲ 1	野菜苗の減少により、かなりの程度減少した。
計		1,383	56.2	82		
畜産	肉用牛	146	5.9	▲ 15	肉牛生産量はほぼ横ばいであったが、価格が減少したことにより、産出額はかなりの程度減少した。	
	乳用牛	259	10.5	▲ 3	生乳の生産量はわずかに減少したが単価がわずかに上昇したことで、生乳の産出額はわずかに増加した。一方、乳雌・雄子牛、育成牛・成牛の単価が大幅に減少したため副産物の算出額がかなり大きく減少となり、乳用牛全体の産出額は前年からわずかに減少した。	
	うち生乳	214	8.7	3		
	豚	465	18.9	35	出荷頭数はやや減少したが、単価はかなりの程度上昇したことから、産出額はかなりの程度増加した。	
	鶏	199	8.1	7	鶏卵、ブロイラーの出荷量はかなりの程度増加したが、鶏卵の単価が横ばいであったため、産出額はやや増加した。	
	その他	12	0.5	▲ 1		
	うち養蚕	0	0.0	▲ 1	天候不順（長雨、猛暑等）による作柄が悪かったこと、養蚕従事者の減少により、産出額がやや減少した。	
計		1,079	43.8	21		
加工農作物		1	0.0	0		
(参考) 水産物		5	-	0	生産量の月変動が大きかったものの、年間では前年並みを維持した。	

(注) 合計と内訳は四捨五入の関係で必ずしも一致しない。

## 個別農産物順位

順位	品目	産出額 (億円)	構成比 (%)	前年順位
1	豚	465	18.9	1
2	キャベツ	225	9.1	3
3	生乳	214	8.7	2
4	米	152	6.2	5
5	肉用牛	146	5.9	4

わずか：±2%以内

やや：±3～5%

かなりの程度：±6～10%

かなり大きく：±11～15%

大幅：±16%以上